2022年度ＧＴセミナー
第56回保育環境セミナー
物的環境編④

第２９６号　２０２２年１０月３１日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ　奥山卓矢

物的環境編④

２０２２年９月５日～７日に「第56回保育環境セミナー」（物的環境編）を開催しました。

オフライン参加は約100名、オンライン参加は６０施設を超えるお申し込みを頂きました。今回は、藤森代表から「物的環境」について考え方をお示し頂きました。

本誌含め、４回に分けてお送りする最終回です。

【セミナー開催趣旨】

乳幼児教育は、その時期の特性を踏まえ，環境を通して行うものであることが基本です。たとえば、赤ちゃんにハイハイをさせようと思ったら、その手順を教えるのではなく、自分から移動したいという動機（欲しい「もの」が前方にあるとか、抱かれたい「ひと」が少し先にいるとか）を持たせ、そこまで行くための距離「くうかん」が必要になってくるのです。そこには、もの、ひと、場（空間）が関わってくるのです。そのために保育者は、乳幼児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるように、子どもが自発的、意欲的に関われるように、物的・空間的環境を構成しなければなりません。
そこで子どもは、それまでの体験を基にして、環境に働きかけ、環境との相互作用を通して、豊かな心情、意欲及び態度を身に付け、新たな能力を獲得し、心身を発達させていくのです。
今年の環境セミナーでは、「くうかん」「もの」「ひと」という環境について具体例を通して基本から学んでいきます。

ギビングツリー代表　藤森平司（新宿せいが子ども園　園長）

第 56 回保育環境セミナー　Q&A②

保育環境研究所ギビングツリー代表　藤森平司氏（新宿せいが子ども園　園長）

今回、オフラインでセミナーにご参加頂いた皆様から寄せられた質問について、
ギビングツリー代表の藤森平司先生に考え方を示して頂きました。

Q9. ステムの玩具や実験種類は何がありますか？

A. まず一つは、最初に物の実験の種類があるわけではなくて、面白そうだと思うものがステムのおもちゃです。私が好きなエピソードで、345 の部屋に石が置いてあります。子どもに聞いたら「これはステムだ、公演に小さい石があって、それを拾おうと掘ったらもっと大きな石があったから、これはステムだ」と言っていた。これもステムの玩具と言えばそう。子どもが不思議だと思ったり、好奇心を持つものはステムのおもちゃです。大人からしたら石ころや草かもしれないですが、子どもの思いを大切にしてあげることです。実験の種類も今年は、お誕生会は食材を使った実験をしています。それをその日のおやつや給食にして食べる。例えば、ラムネやカルメ焼きをしておやつで食べる。調理はまさに科学なんですね。お米があのご飯になるわけですからね。実験は身の回りにいくらでもある。実践発表の中にもあったが、答えを知ることではなくて、過程を体験すること。過程の中から不思議さを体験すること、子どもはなぜ？と聞きたがるが、答える必要はないですね。それを科学的に説明したことで、次の発明に繋がることはないです。不思議さや、これを別のものにしてみようということです。発表にあった砂鉄のように、不思議さの体験が大事ということです。うちの場合は、毎週お手伝い保育があって、あるグループはステムをやるが、担当職員が公演に行って、ステムを探しに行こう！と言って出かけます。公園で拾っては不思議でしょ？というものを集めてくる。卒園児の 1 年生が通った時に、「先生、何か科学ゾーンに置いてある？今度何か持っていくよ！」と言ってくれた。身の回りから見つけていくことも科学ですから、お散歩に行って探しに行く活動も一つの科学ですから、固く考えず、調理だけではなく、生き物も色が変わる。ダンゴムシが丸くなるのも不思議ですね。エスカレータは何で動くのかとか、中はどうなっているかも不思議ですよね、一緒になって考えて、不思議がる中で増やしていくといいと思います。

Q10.子どもたちの遊びの環境を考えて棚や家具で仕切りを作っているのですが、地震などの安全面を考えると、家具などは固定されていなくて大丈夫なのかと不安になります。

A. 地震があるため固定しないとだめですね。転倒は、L 字で固定しなさいというが、L 字で止めた時に、石膏ボードだと抜けてしまいます。止めて安心と言っても、安心になりません。手前に新聞を置いて、壁側に少し倒して、重心をずらした方が倒れないと言いますし、天井と突っ張り棒で止める方が効果的と言われます。ただ、抑える天井も空洞のところではなく、梁のところで止めないとだめですね。木や抜けないところで針金みたいなので引っ張って止めるとか、それは環境によって違うと思います。TV とかなら粘着テープで止めるとかあります。東北大震災の時は、ピアノを床にビスで止めているところも抜けたそうです。本来、一番安心なのは、手で押せるくらいが一番倒れないです。キャスターです。一見倒れそうに見えるが、あれが倒れないのは、床に密着

していないので、そこでとどまる。止めてしまうと、抜けてしまうか、中身が吹っ飛んでしまう。家具に組み合わせるときは、割とＬ字にすると倒れずらいとかある。監査の言う通りで安心かは、その人に物理的な知識があるかです。私たちは子どもを守らないといけないので、倒れても大けがをしない位、軽くしておくとか、それぞれ工夫が必要かもしれません。

Q11.製作が好きな子が多いので自由に作って遊べる製作コーナーを作りたいと思っています。日常的に子どもが遊んでいけるきっかけのヒントはありますか？

A. 遊んでいけるきっかけは自分で見つけます。そのためには廃材や様々な素材を置いておくことと、ブロックではないが、最初はまねをできるようなものを置いておくことが必要かもしれません。絵本を見て乗り物を作ることもあるかもしれません。もし、ヒントが欲しかったら例えば、保育雑誌があると思います。壁面装飾などもあるが、一時期編集にかかわっていたことがあるが、私の娘がそれを見ていろいろなものを作っていた。制作ゾーンに置いておくと、子どもたちは何か作るだろうと思って、ファイルにして制作ゾーンに置いておくと、きっかけになることがあり得ます。壁面装飾なんかも置いておくと、それを子どもたちは花紙を使って作るとか、お店屋さんごっこをするときに、制作ゾーンにおいておき、材料を置いておくと作る可能性があります。昔はまねをすることはよくない、創造力がないと言われていたが、真似をすることが、子ども同士が集まって、他の子を真似することがいいことと言われています。女の子がみんなお花畑・太陽を書いていたことが良くないと言われていたが、そうすることで描き方を学んでいると言われ始めています。絵画も美大に行くとまず、有名な人の絵を模写することからはじまります。その技法を学んでいくことがあるので、まねをすることは決して悪いことではない、人の真似をしないで考えなさいというのはおかしいですね。真似と言っても、コピーでもないので、本人の独創性もあるので、他の子の作品を飾って置く意味があります。作ったものを大事にすることもそうですが、新たに作る子が刺激を受けることもあるので、飾っておくことで参考にすることがあります。きっかけは、まねできるものを置いておく、そのために素材・道具があることが制作コーナーでは大事なことだと思います。

Q12.開けるゾーンと閉めるゾーンを子どもたちと決めたり、保育士が決めていると思いますが、全てのゾーンを開けたりはしないのですか？また、なぜ、閉めるゾーンを作るなどの制限をつけるのですか？

A. 子どもたちはどれを開けるか、閉めるかはうちの園では、子どもが決めますので、全部開けても構いません。制限をしているわけではありません。子どもたちはそのあとに片づけないといけません、全部開けると、片付けられないことを知っています。とても面白かったのが、開け閉めは朝の８時頃決めます。遅く来る子は決められません。決めているものに従うしかありません、ブロックゾーンをやりたい子が遅く来て、閉まっている。先生に、ブロックゾーンを開けてもらえないかと聞いてきたので、先生は、決めた子に行って相談してみたら？といった。その子がブロックゾーンを開けてくれと言ったら、ダメ片づけないで行ったでしょ？だから、今日は使ってはダメといった。そうしたら、ちゃんと片づけるからと言ったら、１日様子見て、片づけたら今度開けてあげると言っていた。大人よりも子どもの方が立派ですね。今の時間は短いからここは無理とか、理由を考えています。もう一つ感心したのが、障がいのお子さんが、あるゾーンがこだわって好きな子がいた。●●ちゃんは登園

する日？と聞いてきた。その子が、施設に行ってリハビリの日かどうか聞いて、今日は園に来る日だよと言ったら、じゃあここは開けようと、他の気持ちを聞いて決めて開けています。何も閉めるゾーンを制限しているわけではありません。ただし先生が決める時間もあります。先生が決める時間に閉めるゾーンを作るのは、いつも開けているところを閉めて、中々開かないところを開けて保育をすることがあります。お楽しみ会に合奏がある。その時は、楽器ゾーンに多くいってほしい時は、開けるゾーンを少なくして楽器ゾーンに行くようにするとか、先生が活動を意図することがあります。子どもたちが決めるときは、先生は介入しないで決めます。先生が、片づけられないなら、この時間帯は開けない方がいいんじゃないと助言はしています。もう一つは、フレキシブルゾーンで給食の場所を使いたいことがあります。その時は先生は、給食の場所だから他のところより 15 分早く閉めるけどいい？と聞いて、いいよとなればそこは使ってもいい。開け閉めは、子どもたちの活動で何を身に着けさせるかで決めることがあります。

Q13.少人数の園で全体でも 16 人、特に 2 才児は 2 人の園です。集団作りでの活動にアドバイスがあれば知りたいです。

A. 小規模で年長が一人の園もあり心配されるが、基本は家庭の中の兄弟は同じ年齢は原則一人ずつしかいません。家では一人でいるだけですからね。それだと発達しないことはないので大丈夫です。ただし、そういう時こそ家であるように、異年齢にしないといけないですね。本当に少なかったらドイツでオープン保育という仕方があります。これがミュンヘンで始まり広がりつつあります。子どもたちは園のどこに何をしてもどの先生の所へ行っても自由という日があります。登園するとホールでお集まりをし、先生が今日はこんなことをしていますとして、子どもたちが今日はどこへ行くか 0 から年長まで決める保育です。この保育を提案したときに先生たちから猛反対がありました。まず、子どもが何をしているか把握が出来ないと反対がありました。話し合いを何回しても、結論が出ませんでした。もう一度原点に戻ろう、子どもがどうなのかに戻ろうとした。もう一度考え直したら、反対理由はすべて大人の都合でした。それで踏み切ったそうです。子どもにとって、どの場所もいい場所にすること。園が楽しいということで、先生たちの心配は乗り越えようと実践しています。0 歳はそんなに選択が出来ないので、知っている先生のところにいることが多いですが、全体で 16 人しかいなかったら、園全体を保育室にして、誰がどこに行ってもいいということをしてみても面白いかもしれません。最初はキンダーガーデンと言って 3 歳以上の施設だったのが、小さい年齢から預かるようになって、0 から 6 になった。キンダーガーデンをフレーベルが作った時から異年齢で、345 が一緒だったが、0 からになっても 0～6 までが異年齢でいます。ドイツで 0 もやるようになり、「体の発達も情緒の安定も違うので、0 だけを別にすることを考えなかったのですか？」と聞いたら、「日本は 0 歳だけ別なのですか？」と聞かれたので、「そうです」と言ったら、感心されました。「0 だけ別にやるんですか？」どうして、そんなに関心するのかと思ったら、日本では、お家で赤ちゃんが生まれて 0 歳だけ別にして、他の子と関わらないと思ったらしいんですね。「家では、一緒です」と言ったら、「なんで園だけ別なのですか？」とびっくりしていました。よく園では、0 歳が寝ているところに上の子がいると危ないというが、だったら家でどうするのか。家で寝ていたら、そっと歩くでしょ？と言われて、なんで園は別なのですか？家でも日本は別だと思いますかと言われました。そう考えたら、0～年長までを異年齢ということはあり得ます。年齢ごとに別にすることは差別だと思われています。日本は年齢別を基本にするというのは、最低基準が年齢によって分けられているからです。ドイツは、大人一人当たりこども何人なので、0 だけでクラ

スを作れないです。それを０～６だったら、０歳に先生がついても、345 は一人でできますのでね、ということで異年齢にしていることがありえます。少ない人数で全て異年齢をやってみてもいいかもしれないですし、少なくても問題ないです。ただ大集団で過ごすことも大切なので、連携をもっていくつかの園で、一つのところに集まるということも必要かもしれません。鳥取の日南町の園に行ったが本園が 70 名、分園が６名で、定期的に６人が大きな人数のところへ行ったり、分園に行ったり大人数で過ごす経験をしていますと言っていました。地域の中で集まって大人数で過ごす体験をするのもいいかもしれません。

Q14.子どもたちの話し合いの場を設けるようにしているのですが、クラス全体でもチームでも、必ず数名はその場にいるけれど参加していない(聞いていない、意見を言わない、ない)子がいます。発言するのは決まった子になってきて、その子たちを中心に話が進んでしまうのですが、なるべく全員が参加して欲しいと思うのは難しいのでしょうか？話し合うためにはそれまでの積み重ねがないと難しいとのことでしたが、最初のステップとしてはどうしていったらいいのでしょうか？

A. 子どもによってあります。人の前で言えないこともあって、私の孫は今３年生の男の子は人前では喋らないです。5 年生の子も手を上げないですね。困ったことが起きたと言って、上の子がテストで学年で一番だったらしい。それを先生が言ったときにうちに帰って来て、「今まで手を上げないし、先生があてても答えなかったが、馬鹿だと思われていたが、頭がいいのがばれて困ったと」言っていました。照れ屋で、知っている同士はおしゃべりです。私の息子もそうで、人前では喋らないで、大きくなったら新幹線の運転手になりたいと言っていった。なんで？と聞いたら、１日中喋らないからと言っていました。そのあとは、コンビニの定員になりたい。なんで？と聞いたら、黙って物を渡せばいいからと言っていたが、途中からやめたと。なんでと聞いたら、おでんを売るようになって、会話しないといけなくなったからと言っていました。途中から教員になりたい、なんで？と聞いたら、１日中喋れるからと言っていたので、どこかで変わると思うが、自分の考えを言うことは必要なので、給食の時のバイキングを考えた。量や種類を言わないとよそってもらえない、おとなしい子でも、１日に　１回は自分の考えを言わないといけない。バイキングを考えた時に、黙って自分の好きな量を取るのではなくて、当番に言ってよそってもらう形をとりました。それは自分の考えを言葉で伝える練習のためそうしました。自分の考えを照れて言えない場合は、下の子に絵本を読んでもらうとかの機会を入れていけばいいので、みんなの中で言えない子もいるので、そういう子は人の話を聞くことが多いと思います。

Q15.昨日新宿せいが保育園を見学させていただきました。幼児クラスの子は、子どもだけで自由に階段を登りおりして部屋を移動したり、食事の場所も自分で選び、自分で選択でき異年齢での関わりがたくさんもてて、凄いと思いました。先生方も、深く干渉せず見守っている印象を受けましたが、子どもの動きや人数把握をどのようにされていますか？私は人数確認がすぐできないことや死角ができることに不安を感じてしまうので、先生方がどう工夫されているのか教えていただきたいです。

A. 園から出ていったときは気にしますが、2階にいなければ3階にいるだろうということで、あまり把握していないと思います。どっちの先生が見ているだろうと思っていると思います。うちは担任意識があまりないようにして、どこにいても見れる先生がその子を見るようにしていますので、担任が見ているだろうということはないです。玄関に来たら玄関にいる先生が見ます。ただ、園から出ていく。登降園時は気にしないといけないので、タブレットで親が印をしたら園の責任なので、災害の時の人数把握は降園になっていない数を数えます。親が降園と押したら、親の責任にしていますと言っています。そうじゃないと把握できませんので、名簿というより登降園ボードをもって、現在今何人いるかを数えています。置き去り事件が起きてしまったが、6，8人しか乗っていないのに忘れるのかが考えられない。3歳になって言わないのかなと思う。友達が言わないのかなと疑問がある。前回も似た事件があるときに、ふつうはあり得ないとしたら、あり得る場合は今回は分からないが、懲罰として閉じ込めてしまって、意図して閉じ込めてしまうことがある。教員も禁止をし始められています。クラスに一人だけ残すことを禁止されています。昔は一人残すことはあったが、現在は虐待になっています。バスの中に残すことは虐待です。それはしてはいけないことです。今回はそうでなければいいが、そうでないとしたら、あり得るのかと思います。散歩でも置き去り事件が多いので、国は散歩のときだけ加配をつけていいという制度を作っていますね。私の園では、地域に見てもらうことをしています。目立つしるしで、うちの園児が変なところへ行かないように見てくれているが、定期的に時間を決めて人数を確認しているが、園の中にいればそれほど上の階にいるか、下にいるかはあまりしていないが、園から出て行ってしまったら問題です。来ていないとかはすぐに確認しないといけないです。休んでいるのなんでか？と家に連絡しないといけないです。何を気にするかということで、コロナに関してもそうです。死角が出来るかどうかは、どうしても死角は仕方ないのは、子どもと話していると背中は死角です。死角はいくらでもあります。フランスでは、子どもと一緒に遊ばないで、壁を背中にして立って全体を観ろと言われています。子どもと一緒に遊んでしまうと、死角だらけになってしまう。日本はボーっと見ていると、そこに突っ立っていないで、子どもと関わりなさいと言われるのが日本の保育と紹介されているのを見たことがあります。ですから、背中が死角になるので壁を背中にして、全体を見ることがあります。なので、家具だけではありません。事故が起きるときには、見ていましたという可能性は低いです。起きた瞬間振り向いてみて、その経過を推測するしかない。「見ていなかったでしょ？」と言われるので、「見ていました」と言ってしまう。でも、見ているというのは危険で、その子がいつ転ぶかは分からない。全体を見てふっと振り返ってみるだけですからね。一度何か物を飲んで詰まらせた子がいて、ふっと先生が見た時に何か飲んだ。医者に行ってビー玉か何かを飲んで、取ってもらって家に帰ってよかったと思ったら、夜なくなってしまった事件があった。その先生が見る前にもう一つ飲んでいた。先生は、「私が見てから一つ飲みました、その前は分かりません」と言わないとだめですね。見てましたと言ったら、一個取って終わってしまう。死角はややこしいですね。見ていたかどうかをやたらという。うちは図が書いてあって3人がこの辺を見ている。親が来ると、親の対応をすると先生が見ていた子を他の先生がカバーするのは阿吽でするしかない。先生がこの遊びに入ろうとしたら、別の先生が他の子たちをカバーするように動く。次回の人の環境の中で話すと思うが、阿吽で子どもを見ていかないと、ひとりの人が見ていたかどうかだと、他の子もみれないし、親の対応もできないので、信用し合ってカバーし合わないとできないので、私はチーム保育を提案しています。今企業ではチーズスイスモデルを提案しています。スイスチーズは穴だらけ。二つ重ねると穴がふさがり、3つ重ねると穴がなくなる。これがたまたま重なって、穴が通ってしまうと事件が起きると言われています。一人が一人を見るのは危険だと思っていま

す。いくら担当制と言っても、３人を担当して一人がこっちへ行ったときに、残りの二人を見れないので、みんなで全体を見ていかないといけないと思います。

本稿は、2022 年９月６日に開催した「第５６回育環境セミナー」のＱ＆Ａの内容をまとめたものです。

（文責/奥山卓矢）